

2025年度がん病診薬連携研修会

化学療法看護と 緩和ケア認定看護師の役割

看護部 吉本・西田・大野（緩和ケアCN）

化学療法看護とは

抗癌剤治療を受ける患者とその家族が、安全に治療を受け、副作用の苦痛を最小限に抑えながら自分らしい生活を送れるよう専門的な知識と技術をもって支援する



看護師の役割

- 安全な治療の提供
- 副作用の管理とセルフケア支援
- 精神的・心理的支援
- 意思決定支援
- 多職種連携
- 在宅・地域連携



安全な治療の提供

【抗癌剤の曝露対策についての患者指導】

対策をとる期間

- ・ 抗癌剤投与当日から2日間。内服抗癌剤は最終内服日から2日間。

排泄物（尿・便）について

- ・ 排泄物の飛び散りを防ぐ為、男性も便座に座って排泄しましょう。
- ・ 排泄後は、トイレの蓋を閉めて水を流しましょう。
水圧が低い場合は2回流しましょう。
- ・ 流水と石鹸で手を洗いましょう。

経口抗癌剤を服用する上での注意点

- ・ 確実に服用することが重要で、飲み忘れ時はスキップする。
- ・ 直接パッケージから口に入れるか、紙コップに移してから内服しましょう。

副作用の管理とセルフケア支援

- 患者が自宅で副作用を管理し、自分らしく治療を継続できるよう、知識・技術・心理面の多角的なサポートを行っています

情報提供と教育	予測される副作用（嘔気、倦怠感、皮膚トラブル等）の種類・程度・時期と対処法を具体的に説明 支持療法薬の正しい内服方法・タイミングを指導
身体的ケア	皮膚や粘膜の状態を観察し、乾燥対策などのスキンケア指導

精神的・心理的支援

外見変化によるストレスの緩和

《アピアランスケアとは》

がん治療に伴う外見変化に起因する身体・心理・社会的な困難に直面している患者とその家族に対して、診断時から包括的なアセスメントに基づき、多職種で支援する医療者のアプローチ

整容的ケア：ウィッグ、ケア帽子、眉毛・まつげのケア、メイクアップ方法の工夫等

変化への不安やストレス軽減のためのカウンセリング

社会生活（仕事）との両立支援

相談窓口の利用について案内

意思決定支援

治療の選択肢について情報提供し、患者さんや家族が納得して治療を継続できるよう支援しています。

- * 専門的知識に基づき、安全な投薬と的確な副作用対策
- * 医療チームと患者の間に立ち、患者の意向が治療に反映できるよう調整（カンファレンスの開催）
- * 治療選択や倫理的ジレンマにたいし、患者が納得して選択できるよう支援



多職種連携 在宅・地域連携

多職種連携

・医師、薬剤師、看護師、栄養士、MSWなどの他職種と協力し、チーム全体で患者さんを支えています。



在宅・地域連携

・入院中だけでなく、退院後や在宅、外来など様々な治療環境で継続的なサポートの情報提供をしています。



外来化学療法室での 緩和ケア認定看護師（CN）の役割

第4期がん対策推進基本計画 (厚生労働省)

第4期がん対策推進基本計画 (令和5年3月28日閣議決定) 概要

第1. 全体目標と分野別目標

第2. 分野別施策と個別目標

全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標

がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

1. がん予防

- (1) がんの1次予防
 - ①生活習慣について
 - ②感染症対策について
- (2) がんの2次予防 (がん検診)
 - ①受診率向上対策について
 - ②がん検診の精度管理等について
 - ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

2. がん医療

- (1) がん医療提供体制等
 - ①医療提供体制の均てん化・集約化について
 - ②がんゲノム医療について
 - ③手術療法・放射線療法・薬物療法について
 - ④チーム医療の推進について
 - ⑤がんのリハビリテーションについて
 - ⑥支持療法等の推進について
 - ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について
- (2) 希少がん及び難治性がん対策
- (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策
- (4) 高齢者のがん対策
- (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

3. がんとの共生

- (1) 相談支援及び情報提供
 - ①相談支援について
 - ②情報提供について
- (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策 (サバイバーシップ支援)
 - ①就労支援について
 - ②アピアランスケアについて
 - ③がん診断後の自殺対策について
 - ④その他の社会的な問題について
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
 - ①小児・AYA世代について
 - ②高齢者について

4. これらを支える基盤

- (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- (2) 人材育成の強化
- (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- (4) がん登録の利活用の推進
- (5) 患者・市民参画の推進
- (6) デジタル化の推進

第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

1. 関係者等の連携協力の更なる強化
2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
3. 都道府県による計画の策定
4. 国民の努力
5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
6. 目標の達成状況の把握
7. 基本計画の見直し

2023年の第4期がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標とし、すべての医療従事者が診断時から治療と併せて取り組むべきとの趣旨から、緩和ケアについてがん医療分野に記載されている

WHO 緩和ケアの定義

「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、**疾患の早期**より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に関して、きちんとした評価を行い、それが障害とならないように予防したり、対処することで、クオリティ・オブ・ライフを改善するためのアプローチ」

緩和ケア認定看護師に求められる知識と技術

- **痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題の
アセスメント**
- **全人的問題を緩和し、QOLを向上するための症状マネジメント**
- **家族の喪失や悲嘆への対応**



緩和ケアの理念

- 生きることを尊重し、誰にも例外なく訪れることとして死にゆく過程にも敬意をはらう
- 死を早めることにも遅らせることにも手を貸さない
- 痛みのコントロールと同時に、痛み以外の苦しい諸症状のコントロールを行う
- 心理面のケアやスピリチュアル面のケアも行う
- 死が訪れるまで患者が積極的に生きていけるよう支援する体制をとる
- 患者が病気に苦しんでいる間も、患者と死別した後も、家族の苦痛への対処を支援する体制をとる

(世界保健機構編,武田文和訳,1990,がんの痛みからの解放とバリエティブ・ケア金原出版,p5-6 より)

JS.Temelが推奨

早期からの緩和ケアにおいては、進行・再発がんにおいて、診断から8週間以内に、化学療法などと並行して専門的緩和ケアチームが介入し、身体的・精神的ケアを継続的に提供することが、全体を通してのQOLを向上させることを示していた。

当院では緩和ケアチームがなく、緩和ケア認定看護師が化学療法室も兼務し対応しています

現在の緩和ケアの提供体制

進行がんや
再発の診断

がん治療(抗がん剤・手術・放射線など)

緩和ケア

遺族ケア

早期からの緩和ケア
診断時からの緩和ケア

緩和ケアは、がんが進行してからだけではなく、がんが診断されたときから必要に応じて行われる

近年、従来の殺細胞性の抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など様々ながん治療の進歩や副作用対策への進歩は著しい。

病状がかなり進んだ状態であっても、がんの縮小・維持を期待できる治療の提示が可能となっている。



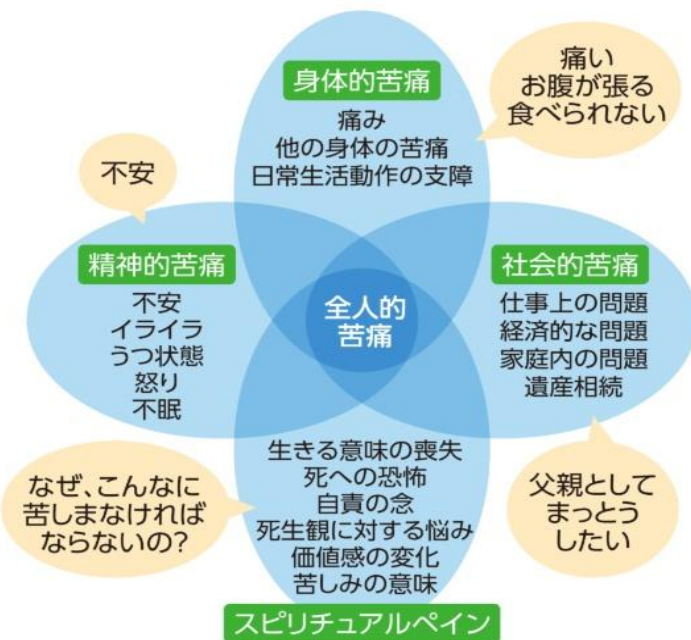
がん治療の「やめどき」が不明瞭

緩和ケア, Vol.30, No.6

早期からの緩和介入は全人的苦痛の緩和
患者との信頼関係構築により先々の目標を
再設定するためのACP実践が容易となる

外来化学療法室での緩和ケアCNの役割

痛みや吐き気、食欲不振、だるさなど体の症状や、気分の落ち込みや孤独感など心のつらさを軽くするため、また、自分らしい生活を送ることができるように、緩和ケアでは医学的な側面に限らず、幅広い対応をします。



外来化学療法室での緩和ケアCNの役割

- 早期からの症状緩和（化学療法による副作用対応）
- 患者との信頼関係構築によるACPアプローチ
- 化学療法が継続できる体調維持サポート
- 休薬やレジメン変更時、ギアチェンジ等による精神的苦痛の緩和
- 化学療法担当看護師への緩和ケアのロールモデル
- 家族ケア
- 他職種との連携による患者支援（療養先等）

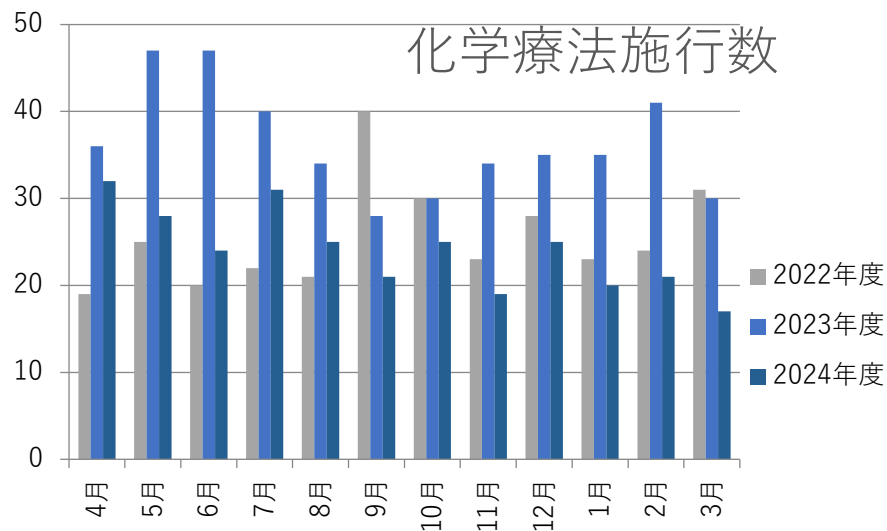


外来化学療法室

外来化学療法実施日：月・水・木曜日

化学療法室担当スタッフ：5名

ベッド数：リクライニング3台・ベッド2台





緩和ケア認定看護師の院内活動

外来・化学療法室（月・水・木）兼務

★緩和ケア相談：外来患者は常時対応



告知・今後の治療方針・不安

今後の療養先について など

毎週火曜・金曜日 病棟ラウンド・面談

緩和ケアについて
ご相談あれば常時
対応しております





ご視聴ありがとうございました
今後も、大阪救済会病院を宜しくお願いいたします。